

地域で生きられるかどうかにかかわる大問題 公立・公的病院の再編統合

地域医療をどう守っていくか。23日、十日町市で行われた「みんなで守る妻有地域の医療・介護、講演と意見交流会」（「オール十日町・津南 平和と共生」主催）に参加してきました。元長岡日赤病院の看護師長で元県議の竹島良子さん、県立松代病院の鈴木和夫院長さん、元松代病院院長で、現在は魚沼市立小出病院長の布施克也さん（写真）が講演されました。参加者は350人を超え、会場は人であふれました。関心が高かったですね。

今回の会は、昨年9月に厚生労働省が424の公立・公的病院の再編統合対象リストを公表、県病院局が11月に「県病院事業の経営改善に関する緊急的な取組」を発表するなかで、妻有地域の医療・介護をどう守っていくかをテーマに市民団体が開催したものです。

講演の中で竹島さんは、「病院の再編・統合は、地域の医療機関がなくなり、住民が地域に住み続けられるかどうかの問題であり、協同した運動が必要」「医療・福祉の分野は、地域の雇用を産み出す場。地域経済にとっても重要だ」

「新潟県では、山間・豪雪地で採算の取れにくい地域医療を、県立や厚生連などが支えてきた。公立・公的病院だからこそネットワークを活かした職員配置が可能となる。医師確保は、病院運営を市立にした場合、ますます困難が予想される」「新潟県の年齢調整後の一人当たり医療費が全国最低なのは、公立・公的病院が効果的に医療を提供しているからではないか」と今回の一連の動きの流れ、ポイントなどを整理しました。

そして、今後の課題として、「多くの病院が赤字となっているが、医師会の要求（賃金動向に応じた診療報酬に）でもある診療報酬を引き上げて、安定経営ができる条件にすること」「在宅医療体制の充実を求めること」「医師不足が診療科の閉鎖→入院病棟の縮小→病院の経営悪化につながっている。医師不足対策を国と県が緊急に行うこと」を掲げ、地域医療を守るため、幅広い人たちと共同の取組を進めていこうと訴えました。

松代病院の鈴木和夫院長は、松代・松之山地域の医療の現状と取り組みについて報告し、「小さい病院のメリットを生



かし、県民の生活を、地域の生活を医療で支援していきます」とのべました。

小出病院の布施克也院長は、魚沼圏域の地域医療構想を解説しながら、「松代は新しいへき地医療のモデル。みんな健康でハッピーになる（幸せになる）健康づくりの拠点だ」と話されました。そして布施さんが最後に紹介された言葉は、2015年9月の国連サミットで採択された国際目標、「誰一人、置いてきぼりにしない」でした。



【チョウジザクラ】再掲。漢字で「丁字桜」と書きます。バラ科。野に咲くサクラの中では最も早く咲くのですが、異常とも言える今年の暖冬の中で、いつもよりも1か月も早く開花しました。しっかり記憶しておきましょう。写真は吉川区代石にて24日、撮影しました。

最新設備機械が導入された新消防庁舎

藤野新田にある新消防庁舎の内覧会が20日にあり、参加してきました。

庁舎棟は鉄筋コンクリート造5階建。免震構造です。総事業費は54億7000万円。新しい建物は、随所に最新の設備機械が導入されています。なかでも指令室は、指令装置、高所カメラ（地上40m）、車両運用端末装置などが最新のものとなりました。指令装置は4画面フルタッチパネルディスプレイを採用し、これまでのキーボード入力やマウス操作に加え、電子ペンや手書き文字の認識ができるようになりました。通報内容から災害種別と災害地点の特定をし、災害種別・規模に応じて最適な出場隊を自動で編成できるようにしました。

驚いたのは庁舎屋上に設置された高所カメラです。高さ40メートルの高さからの映像は鮮明で、妙高市役所もはっきり見えました。望遠は26倍とか。災害地点が定まると、そこへカメラが向き、望遠レンズを使って現場の状況を把握することが出来ます。

新庁舎は3月17日に供用開始され、同月の26日に記念式典が行われます。



はしづめ法一の
活動レポート

No.1949 2020.3.1

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索